大学生におけるパーソナリティ障害特性の Comorbidity の特徴

○市川玲子¹・望月聡²(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²筑波大学人間系)

キーワード: パーソナリティ障害特性, Comorbidity, 自尊感情

Characteristics of comorbidity of personality disorder traits in undergraduates

Reiko ICHIKAWA¹ and Satoshi MOCHIZUKI²(¹Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Univ. of Tsukuba, ²Faculty of Human Sciences, Univ. of Tsukuba)

Key Words: Personality disorder traits, Comorbidity, Self-esteem

目 的

現在, DSM-IV-TR(American Psychiatric Association: APA, 2000)において, 10 類型のパーソナリティ障害 (以下 PD) が定義されている。個々の PD の概念は, 伝統的な PD 類型や記述的精神医学, および精神分析に由来する類型を中心に, Millon(1981)の PD 理論に由来する概念を加えて指定された。しかし, 各 PD 類型にはさまざまな起源があるため, 類型間の重なりや異同がしばしば問題視されている(林, 2005)。DSM の分類体系の問題点については, DSM-IV-TR においても「ある種の研究や教育には有用であるが, はっきりと限界があるし, 一貫性のある妥当性も示されていない。しかも, 異なった群の PD を同時にもっていることがしばしばある」と記されている(APA, 2000 高橋ら訳 2003, p.652)。Widiger et al.(1991)は, 各 PD 類型について算出された他の PD との合併診断の頻度が, 依存性 PD の 69%から境界性 PD の 96%と高率であることを明らかにした。

また, これまでに, PD を疾患単位と見なすか, あるいは PD を健常群と臨床群の連続性の間に位置づけるかという議論がなされてきた(Livesley et al., 1994)。Haslam et al. (2012)や Arntz et al.(2009)は, Taxometric research の知見から PD に連続性を仮定できることを示唆し, さらに Bagby et al.(2005)は, DSM-IV の PD がそれぞれパーソナリティの Five Factor Model(Costa & McCrae, 1992)の5因子によって説明されうることを示している。

しかし, PD を連続的に捉えた上で, 各 PD 特性間の Comorbidity の特徴を明らかにした研究はこれまでに行われていない。そこで本研究は, 一般大学生を対象とした質問紙調査を行うことで, 境界性・自己愛性・演技性・強迫性・依存性・回避性 PD 特性間の Comorbidity の様相を明らかにし, これらと PD の全般的診断基準に含まれている自己や他者に対する認知的特徴との関連を検討することを目的とした。

方 法

調査対象者: 大学生および大学院生 306 名 (男性 117 名, 女性 185 名, 不明 4 名; 平均年齢 20.0 歳, $SD=1.93$)

使用尺度: ①DSM-IV II 軸パーソナリティ障害のための構造化面接(Structured clinical interview for DSM-IV axis II personality disorders: SCID-II; First et al., 2000; 高橋・大曾根訳, 2002)に含まれる「人格質問票」における境界性・自己愛性・演技性・強迫性・依存性・回避性 PD に関する項目。②ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版(桜井, 2000)。③社会的自尊感情尺度(岡村, 2005)。④自己価値の随伴性尺度(伊藤・小玉)。⑤仮想的有能感尺度 ver. 2 (Hayamizu et al., 2004)。

結果と考察

PD 特性の Comorbidity の様相: 6 つの PD 特性得点の標準得点を用いて, Ward 法によるクラスター分析を行った結果, 4 クラスターが抽出された。各クラスターの特徴を比較するために, 各 PD 特性得点を従属変数とした分散分析を行った (Figure 1)。いずれの PD 特性得点についても群間差が見ら

れ, 多重比較の結果, (1)自己愛性・演技性 PD 特性が高い群 (自己愛・演技群), (2)全 PD 特性が高い群 (高 PD 特性群), (3)回避性 PD 特性が高い群 (回避群), (4)全 PD 特性が低い群 (低 PD 特性群) が抽出されたことが示された。したがって, これら 6 類型の幅広い PD 特性で Comorbidity が見られることと, その中でも特に自己愛性・演技性 PD 特性の Comorbidity が顕著に見られることが示唆された。

各クラスターにおける自己認知・対人認知の特徴: 各クラスターを独立変数とし, 自尊感情, 社会的自尊感情, 随伴性自尊感情, 他者軽視傾向の各標準得点をそれぞれ従属変数とした 1 要因分散分析を行った (Figure 2)。多重比較の結果, 自己愛・演技群と低 PD 特性群は他の 2 群よりも自尊感情得点が高いこと, 自己愛・演技群は他の 3 群よりも社会的自尊感情が有意に高いこと, 高 PD 特性群は他の 3 群よりも随伴性自尊感情が有意に高く, 回避群および低 PD 特性群よりも他者軽視傾向が有意に高いこと, および自己愛・演技群は回避群よりも他者軽視傾向が有意に高いことが示された。したがって, 広範な PD 特性には, 他者に対する否定的な評価傾向や, 自己価値の外的要因への随伴性の高さが関連していることが考えられる。また, 自己愛・演技性 PD 特性の Comorbidity には, 対人関係における自己肯定感と他者に対する否定的認知が関連していることも示唆された。

Figure 1 各クラスターにおける各 PD 特性得点標準得点の平均値

Figure 2 各クラスターにおける各得点の標準得点の平均値